

令和参年 新春

蔵開き
かどづ
門付け

長岡
替女
こぜ
女



越後替女唄 葛の葉会

旧来より1月11日は、大晦日や元旦から閉ざされていた蔵を初めて開き祝う

「蔵開き」という習わしがありました。

その日長岡替女たちは町家や商家の門口に立ち、

おめでたい場面をもち立てたといひます。

とき 令和3年 1月11日 (月・祝)

アオーレ門付け(アオーレ長岡ナカドマ) AM10:00～

大手通門付け(大手通周辺店舗前) AM10:20～

屋内演奏会(Gallery沙蔵) AM11:00～



ところ アオーレ長岡ナカドマ、大手通周辺 店舗前
および Gallery沙蔵

料金 自由料金(ドネーション)制

替女は、旅をしながら三味線を伴奏に歌をうたって歩いた盲目の女芸人です。三、四人がグループになり、晴眼の手引きに先導され、昼は民家の戸口に立って門付けを行い、夜は泊まり宿で近間の人たちを集めて一夜語りをし、米や銭など幾分か報酬を受けて渡世していました。娯楽の乏しい田舎の人たちにとって、替女の来訪は待ち遠しいものでした。

新潟県には長岡替女と高田替女の二派が大きくその組織を形成していました。長岡替女は明治時代四百人もの替女集団があり、替女頭山本ゴイが旧長岡市大工町(現日赤町一丁目)に替女屋敷を構え、集団を取り仕切っていました。

主催：替女唄ネットワーク

協力：Gallery沙蔵、

長岡市大手通商店街振興組合、

宝石のミヤコヤ、青森尚敏商店、

鍋忠金物店、器の店ふじいほか

後援：長岡市教育委員会

お問い合わせ：0258-46-8054(鈴木)